

情報通信技術（ICT）

を活用して地域の活性化を
探る「ICTフォーラムい
徳島2010」（徳島I
CT研究協議会主催）。先
日、徳島大学常三島キャン
パスで開かれ、国内外のI
T企業など90団体、約50
0人が参加、大いに盛り上
がった。

徳島ICT研究協会は産学
官連携を基盤として毎月発
足。ICT利活用の現状調
査、ICTの研究や人材育
成を行い、技術の活用が遅
れている徳島の企業・団体
の利用促進を後押ししてい
く。今回のフォーラムで
は、これからの新しいICT
Tの活用方法である「クラ
ウドコンピューティング」
に関して活発な意見が交わ
された。

元気をつくる マネジメント力

③

クラウドコンピューティ
ングの効率的な活用方法の
うち、企業や公共機関が地
域で共通したIT基盤をク
ラウドで構築する「地域ク
ラウド」について講演があ
った。国内外のトップIT
企業9社がクラウドを実現
するICTを紹介したほ
ろ、消費エネルギーコスト
を維持コストとして占めて
いた状況を打開するため2
005年に2億を投資
し、クラウドによりITシ
ステムの仮想化、自動化、
省電力化を行ったという。

徳島県は、私が構築に関
与したYahoo!Japan
との連携モデル「すだ
ちくんメール」について報
告。すだちくんメールは利
用料無料で、システムにア
ドレスを登録すると災害時
などの安否確認ができるシ
ステムだ。震度5強以上で
登録者全員にメール送信さ
れ、組織ごとに職員の安否
確認ができる。徳島県の取
り組みはクラウド化システ
ムとしては利用価値が高い
と認める。

企業のICT活用

か、その技術を生かしてど
のような地域クラウドを実
現しようとしているのか、
などを説明した。

また、シスコシステムズ
合同会社の平野康文社長が
「クラウドコンピューティ
ングを基盤とした都市づく
り」のテーマで講演。都市
を支えるインフラストラク
チャーとして、ICT技術
ムとしては利用価値が高い
と認める。

クラウド化の一つの意義
は、組織ごとにバラバラに
IT投資をするのではなく、
必要な機能を整理し必
要な組織で利用できること
だろう。今後、クラウドの
知識を深めるとともに、組
織や業務の流れを抜本的に
再設計する「ビジネス・プ
ロセス・リエンジニアリン
グ（BPR）」が必要だ。

企業がICTをいかに活
用し、どう業績アップにつ
なげていくか。中小企業に
とっては難しいテーマだろ
う。徳島ICT研究協を通
じて多くの企業がBPRを
進め、クラウド化されたシ
ステムを構築していくこと
を期待したい。（森川 富
昭・徳島大学病院情報セン
ター部長）

Ⅱ 随時掲載